

# 世界知識

昭和十六年七月十五日印刷 昭和十六年八月一日發行 第十四卷第八號



# 8

東京誠文堂新光社發行

(EXPORT No.F7) Made in Japan  
Published Monthly by Seibundō Sinkosya, Co., Ltd. 5-1 Tyome Nisiki-tyo Kanda, Tokyo, Nippon.

## てめしきひを肌おと、リキ に滴一のこはみ嗜身男的性男

に地下粧化・にり上湯は人嬌御



料肌整の家一瓶一

# ドーフトーレ

日本標準規格B列(182×257mm)

世界知識 第十四卷 第八號 昭和十六年十一月廿七日第三種郵便物認可 昭和十六年七月十五日印刷納本 昭和十六年八月一日發行(毎月一回一日發行) (書店預約者) 定價八拾圓(送料三圓)



# 水戸學徒傳列

文學博士 高須芳次郎著

## 水戸學入門書

維新回天の根幹をなした  
水戸學徒百數十名の生涯

義公・烈公を始めとして、安積幽泊・藤田幽谷・藤田東湖・會澤正志齋等を生み、いち早く皇道發揚の旗印を高く掲げた水戸藩先哲百數十名のかくれたる功績と事業を明かにしたのが本書である。巻末には水戸藩研究に必用な諸部門を特に設け讀者の便を計った。

—— 目次 大綱 ——

水戸學徒の尊皇主義と熱情  
人材輩出及びその學的貢獻  
名利に淡泊な人見  
水戸義公の一生  
不良少年から眞面目な生活へ  
義公の尊皇精神  
天下の大器  
義公の晩年と山莊生活  
水戸烈公の出現  
烈公の猛進  
國防に對する烈公の熱情  
烈公・水戸文學振興と教育事業  
安積幽泊の人物と閑歴  
室鳩巢と幽泊との交遊  
水戸政教學の先驅者藤田幽谷  
滿身至誠の人幽谷

純日本式裝幀の美本 定價二圓

澁川玄耳原著 誠文堂新光社編輯部補訂

## 三體古事記

規格B6 四八〇頁  
定價 二圓五十錢  
送料 二十一錢

文學博士 高須芳次郎著

大日本史に  
現はれた **尊王精神**  
規格A5 三六五頁  
定價 三圓五十錢  
送料 二十一錢

「大日本史」の哲學原理は尊皇、大義名分の上にあつて、總ての史的現象はこの原理の下に統制、批判された。「國史に還れ」と叫ばれる折、眞に水戸學を究めつゝ皇道精神に徹しようとする者にとつて、本書は好個の研究文獻となるであらう。

福本 義亮著

## 吉田松陰の殉國教育

規格A5 一一〇〇頁  
定價 六圓  
送料 三十二錢

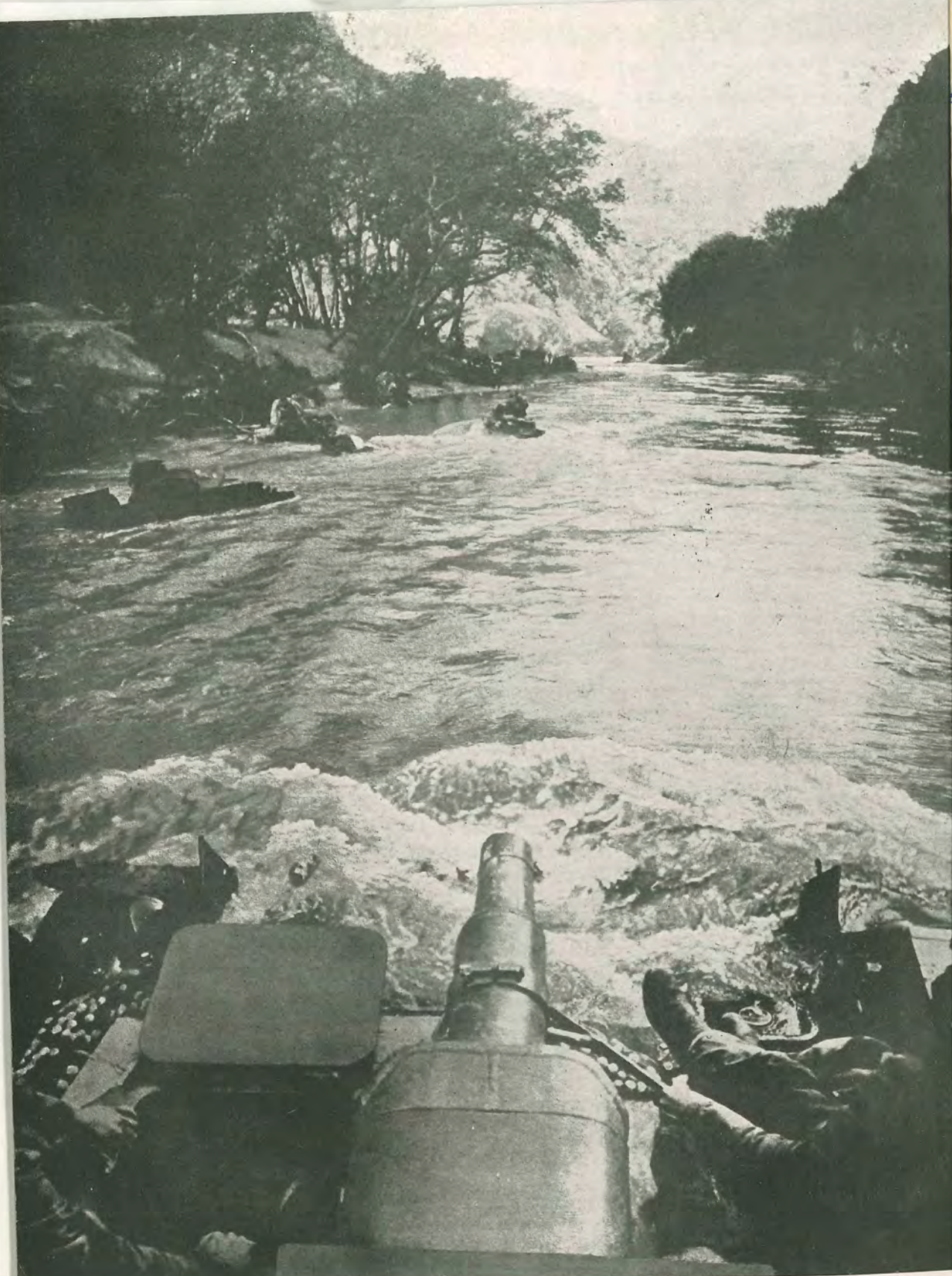
德富蘇峰先生評 同郷の士は今や此處に菊判細字一千餘頁の巨冊を編述す。然も先生を中心として其周邊の事實事情光景雰囲気についてあらゆる資料を検討し、これを捫撫して餘力を剩すところなきに至りては、福本君に向つて脱帽せねばならぬ。云々。

福本 義亮著

## 至誠 吉田松陰の最期

規格A5 三〇〇頁  
定價 三圓八十錢  
送料 二十一錢

明治維新建設の指標を確立した者は、實に吉田松陰先生であつた。烈々熱火の如き先生の至情至誠こそ、今日の日本人一億の具に學ばねばならぬものである。本書こそ生ける松陰の書として好評を博しつゝある。



中河を進めつつ敵陣へ薄肉を行くツイド  
軍車隊(砲塔より撮影)——シリギ戦線にて





(日七十月六) 相首經近るす手握てへ迎を席主汪たい着に驛京東

司田島たれ訪を丸幡八に前帆出海上  
(日四十月六) 席主汪る語と官長令



いつに備設の内船らか長船の丸幡八  
(日五十月六) 席主汪く聞を明説て



(日四十二月六) 席主汪ふ行を放的史歴け向に亞東てじ通をKA



(日七十月六) 使大國中駐緒のへ迎出と席主汪たつ立り降に關玄館使大國中

し 固 よ い よ い 石 礎 の 華 日

# 日 訪 の 席 主 汪

(日十二月六) 席出汪の席出に宴招の催主相外岡松に邸官相外

我國の國民政府承認に對する答禮として、この度、日本に來朝した汪主席は我國朝野の熱誠溢るゝ歡迎のうちに、席の暖まらない多忙な日を過ごしたが、その慌しい訪日中に、日支の提携と大東亞共榮圈に對する信念を固めて、再建支那の中樞南京に歸着した。







ローマのキリナーレ宮においてムッソリーニ伊首相と會見する我が訪歐軍事使節山下中將とその一行

# 世界の様態

チアノ外相を伴ひアルバニア戦線巡閲のため  
チラナ飛行場に着いたエマヌエル伊皇帝



マドリドの陸軍士官學校を視察する  
フランコ將軍（右から二人目）



齡美宋るすを待接の茶に氏ーリカたし問訪を慶重てしと使特領統大ル



相首英ルチャーヤチる乗に艇汽の河くムーテめたの視巡を域地害被爆空



相首伊ニーリソ ムるす印調に約條の間アチアロクとアリタイ







測観の地陣敵想假るけおに習演季春の徒生校學官士聯ソたれさ設特にフエキ



ソ聯の女戦車兵

世界の謎として、その實力を疑問符の中に閉ぢこめられてゐたソ聯赤軍は、今やドイツの電撃戦の前に、果してその鋭鋒を阻止し得るであらうか。

官士軍海聯ソるすを義講に徒生の 校學水潜フローク



獨ソの國交つひに切斷さる

赤軍の實戰態勢

……今やその眞價を世界に問はれる時期到來……

ウクライナ地方を守備するソ聯の機械化部隊



モスコイ陸軍士官學校生徒の大砲操作實習



員團兵海隊艦ク ッチルハ聯ソいなの念餘に究研ていつに船艦型模





# ドイツのソ聯進撃の核心

笹川英男

## 歐洲新秩序建設の 豫定行動

ドイツは對英決戦を前に控へながら、何故に對ソ開戦を敢行したか？これについては、いろいろ噂されてゐるが、要するに、ソ聯の穀倉といはれる豊饒なウクライナを確保することが、重要目的の一つであるといはれてゐる。しかし、ウクライナ確保は長期戦に備へて、食糧や礦物資源を確保する必要といふよりも、寧ろドイツの歐洲新秩序建設の豫定の行動であり、同地方が大ドイツ生活圏内に包含されるものであることは、ヒットラー總統がナチ政權樹立以前からの計畫であり、また、その後も繰返し強調されてゐたところである。

前回の大戰においても、ドイツはウクライナ地方一圓を占領し、一九二八年初頭には短命ながらも、ドイツ政府擁護の下にスクロバドスキー將軍を首班とする

共和國を樹立したこともあつた。即ち一九一七年ロシア革命が勃發し、露帝ニコライ二世が敢なく葬り去られると共に、ロシア軍が潰滅に瀕した時、ドイツはこの豊饒なウクライナへと着眼し、結局これを手中に収めることに成功したのである。當時ドイツにおけるヒンデンブルグ元帥及びルーデンドルフ將軍は、食糧の缺乏に直面してゐるドイツ軍にとつて、ウクライナはこの上もない穀倉であると確信してゐたが、一九一八年三月三日ブレストリトウスクにおいて、單獨講和を要する勞農政府代表をしてフィンランド、エストニア、ラトヴィア、リトアニアのみならず、豊沃な土地であるウクライナ地方を、ロシアから分離する條約に調印せしめ、ドイツの擁護下にウクライナ共和國を樹立したのである。

## 頑固な性質の農民達

もと／＼ウクライナの農民はなか／＼

頑固な性質であり、大戰が終了してこれ等農民の少數が西部戦線から解放された時、ウクライナの治安を維持するためには、ドイツ軍五十萬が必要であつたそれに、ウクライナ農民はドイツ軍に對し食糧を供給することを快しとせず、一九一八年の收穫をドイツ軍の目をかすめて、自分等が必要とするだけの穀物の植付しかなかつたのである。

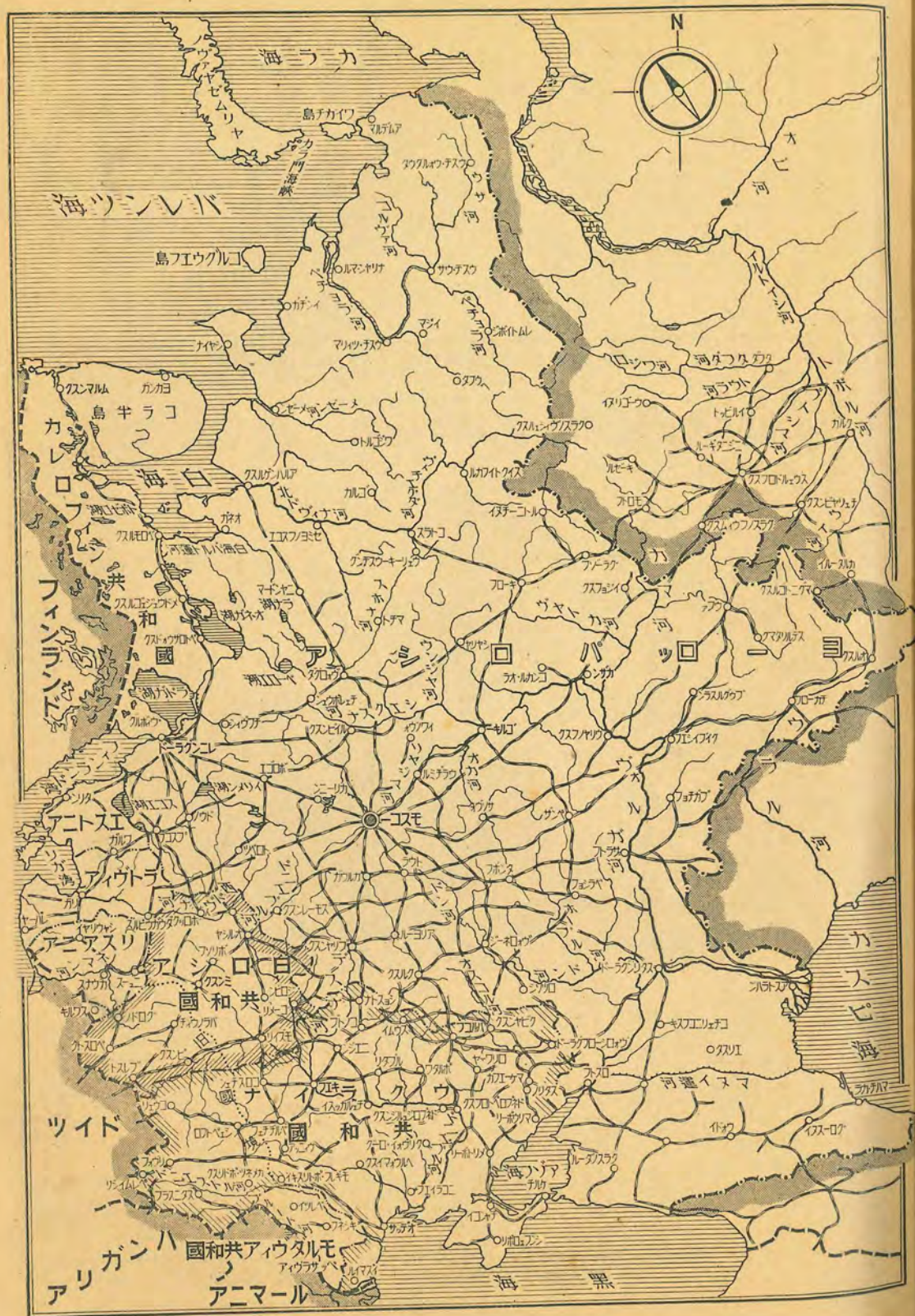
その後、聯合國側における戦勝によつて、ブレストリトウスク條約を無効としドイツの樹立したウクライナ共和國は再びソ聯領に復歸し、一九二三年には、社會主義ソヴィエト共和國の一員となつて、今日に至つてゐるのである。

變らずで、スターリンが共營農場化運動に着手するや、彼等は曩にドイツに向けたと同じやうな怠業を行つたのである。その結果、ソ聯政府はウクライナの穀物を沒收して、三百萬のウクライナ農民を飢えるがまゝに放任したのであつた。これが一九三三年の有名なウクライナの饑饉である。

またウクライナは穀倉であるばかりでなく、鐵、石炭等の埋藏量も實に豊富な



ヘ灣ヒスカと海黒は水の出れ流らか脈山のスサカーコ

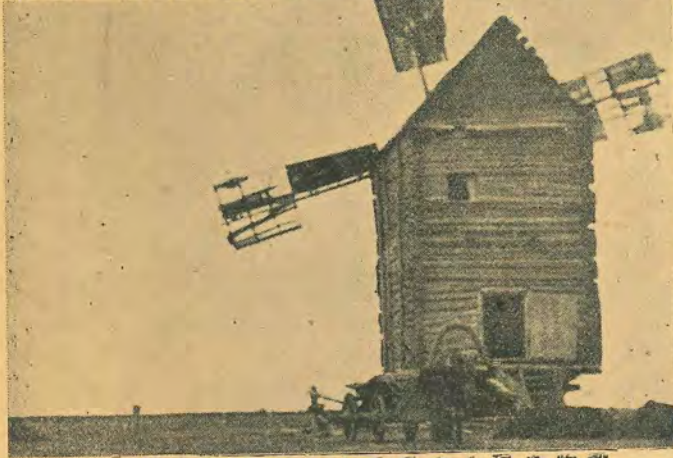






秋の収穫の時のウクライナ

シベリア、ユダヤ人ポーランド人、それにドイツ人も少数ある。首府キエフは人口八十四萬六千餘で、モスコ、レニングラードに次ぐ大都市である。革命前の宗教、商業中心地から今日では一大工業地であり、また文化の中心地となつてゐる。キエフに次ぎソ連第四の都市ハリコフは重工業及び交通の中心地、人口八十三萬三千餘名を數へてゐる。海への出口を鎖されてゐるソ連に



穀物を振るウクライナの風車小屋

（本誌第十四卷第五號「本年五月號」五〇頁参照）  
ドイツ軍の進撃に際して、ウクライナが今後如何なる擧に出るであらうかは注目すべき點である。

### 石炭採掘高

（一九三八年）		千トン
ドネツ炭田		80,733
ボドモスク炭田		7,416
クズネツ炭田		17,388
ウラル諸炭田		8,062
東シベリア諸産地(1)		6,850
極東諸産地		4,752
コザック共和國諸産地		4,427
トクヴィプリスキー産地		262
トクワルチェリスキー産地		12
ソ連邦總數		132,888

### 石油(石油瓦斯ヲ含ム)採掘高

（一九三八年）		千トン
バクー油田		23,980.0
グロズヌイ油田		2,763.6
その他諸地方		5,487.2
ウラル地方		1,298.4
クラスノダール地方		2,250.3
極東		360.9
トルクメニスタン共和國		436.7
ウズベク共和國		225.3
タジク共和國		652.0
コザック共和國		652.0
ソ連邦總數		32,230.8

### 鐵鑛採掘高

（一九三八年）		千トン	%
ロシア共和國	10,459.8		39.4%
中部地方	1,388.2		5.2%
ウラル地方	7,729.1		29.2%
シベリア	490.4		1.8%
クリミヤ自治共和國	852.1		3.2%
ウクライナ共和國	16,069.9		60.6%
ソ連邦總額	26,529.7		100.0%

とつて、黒海、アゾフ海沿岸の諸港は絶對的意義を有する。即ち黒海のオデッサ、ニコライエフ、ヘルソンにアゾフ海

一九三五—三七年のソ連全土を吹荒んだ肅清の嵐で、一番その鋒先を集中されたのがウクライナであつた。即ちドイツのスパイといひ、人民の敵と呼び、民族主義者と稱して、肅清工作にひきかかつた數十萬の黨員、非黨員は、要するに反スターリン分子である。これ等の分子は大牛片づいただらうが、しかし、まだ完全に一掃されてゐないといはれてゐる。かゝる反ソ的分子の潜在するウクライナであるから、何時反ソの烽火がこの地にあがるかも知れぬ危険を多分に包蔵してゐる。

もので、製鐵、機械工業、化學工業地帯は、東部のドネツ盆地地方に散在してゐる。工業中心地のハリエフは、ソヴィエト・ウクライナの發祥地であり、現在ではトラクター等の農業器具が生産されてゐる。ウクライナの肥沃な黒土は小麦のみならず、現在においては砂糖、大根、亞麻、棉花等を産出してをり、その總面積の九六パーセントは共營農場化されてゐる。（前頁の地圖は歐露圖）

### ソ連唯一の寶庫

地形を一瞥すればわかるやうに、ウクライナ全土は山脈と稱すべきものがない大平原で、黒海、アゾフ海に面する温暖な黒土地帯である。農産物全體としては全ソ連の二割餘であるが、その主なるものを擧ぐれば小麦の五五パーセント、小麦二九パーセント、甜菜八五パーセント、煙草六六パーセント、玉蜀黍四六パーセント、亞麻二六パーセントといふ壓倒的な産額を占めてゐる。そればかりでなくソ連第一の工業地帯ドニエプロドトロフスク及びドニバスを擁するウクライナは、全ソ石炭及び鉄産額の六割以上を産し、機械製作工業では全ソ連の四分の一を占める豪勢である。これが僅かに

聯全土の四〇分の一に近い面積（西部ウクライナを含め五十三萬三千三百平方キロで、約日本全土）しかないウクライナ

である。もつてその絶大な經濟的重要性を知ることが出来るであらう。人口は一九三九年一月の國勢調査によ

れば、三千九十六萬餘名となつてゐるが、今次大戰勃發直後、舊ポーランド領の西部ウクライナを併合して八百萬を増した。人口の稠密な點でもソ連十六共和國（新四共和國を含めて）の筆頭である。人口の八割はウクライナ人で、他に大

單位	大ロシア	ウクライナ	白ロシア	アゼルバイジャン	グルジア	アルメニア
鑛工業						
發電所電力生産	千キロワット	5,370.2	1,980.0	88.6	235.9	78.7
發電所電力生産	百萬キロワット時	23,787.2	9,343.4	430.4	1,390.9	265.5
重要工業部門						
石鐵鑛	千トン	52,921	69,072	—	—	400
鐵鑛	千トン	11,355.9	16,414.1	—	—	—
鋼	千トン	5,686.6	8,800.8	—	—	—
銅	千トン	9,234.1	8,466.7	—	—	—
鋁	千トン	21,924	4,721	233	207	109
化學工業(鐵山、石鑛工業を除く)	同	3,114	709	—	—	—
燐灰石	千トン	2,121	—	—	—	—
食品工業	百萬ルーブル	9,884.1	—	—	—	—
織物工業	百萬ルーブル	8,455.4	—	—	—	—
農業集團(7月1日現在)						
世帯	パーセント	92.6	96.1	87.5	86.5	88.7
種面積	千ヘクタール	99.4	99.7	96.0	93.5	92.6
播種面積	千ヘクタール	93,422.4	25,124.9	3,514.8	1,097.9	436.6
穀類	千トン	73,861.6	18,193.5	2,243.5	805.7	861.9
小麥	千トン	27,262.6	—	242.5	—	312.1
内工	千トン	6,424.4	2,358.4	293.7	211.7	52.5
織物	千トン	1,756.7	—	255.1	—	—
長纖維	千トン	343.7	816.7	—	—	5.8
場用甜	千トン	284.1	223.9	—	192.6	—
野菜	千トン	5,973.2	—	—	—	—
馬鈴薯	千トン	4,730.4	1,337.7	631.1	—	—
内飼料	千トン	7,438.5	—	—	41.3	46.2
多年性飼料作物	千トン	2,955.5	—	—	—	6.6
總生産額						
穀類	百萬ツェントネル	874.7	227.7	18,209	7,923	10,064
小麥	百萬ツェントネル	316.4	100.8	2,026	—	2,321
内甜	百萬ツェントネル	64,903	144,346	—	—	—
原亞麻	百萬ツェントネル	1,211.8	1,148	—	2,080	—
馬鈴薯	百萬ツェントネル	4,649.5	—	714	—	—
馬鈴薯	百萬ツェントネル	458.0	119.044	70,056	—	—
年末における家畜數						
牛	千頭	31,527.9	7,759.4	1,905.3	1,535.4	1,754.9
内牝	千頭	14,958.0	3,458.9	1,027.2	494.8	549.4
豚	千頭	14,569.7	7,729.7	1,951.0	120.5	684.0
羊	千頭	42,005.0	3,301.5	1,077.3	2,439.2	1,954.2
山羊	千頭	10,680.7	2,937.2	12.3	199.4	168.2

（本表は一九三七年ソ連政府發表による同年度分の生産額）





各種の武器は別の落下傘で降下されるが隊員各自のやうな自動銃を携行する



# 隊部傘下落の軍陸國米



間瞬たれ離を機の一タイプ五七度高



るす動行てつ握を銃傘に時同と陸着



員隊つ待を下降で中機送輸スラゲダ

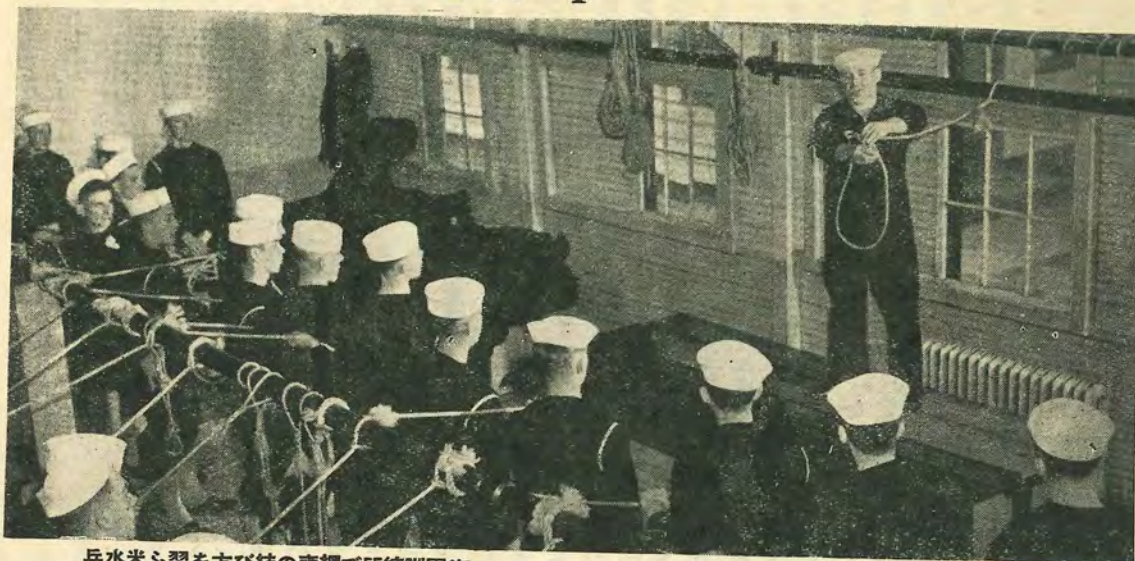






# 米國海軍生活記

F・B・ローバ・ズ・コトルント



海軍訓練所にて綱索を結び習ふ米水兵

本文は米國海軍と共に生活したF・B・コルトンの體験記から抄つたもので、米國艦隊乗組員の生活の表裏が窺へる點で興味あると思はれる。彼等には艦上でも

## 夜間演習

「灯りを消せ！」

一人の士官が耳元で囁いて、私の脇腹を小突いた。私のポケットの中の緑色の遮蔽をした懐中電燈の光がひよつと洩れたのだつた。

夜間演習である。完全に燈火管制を施した合衆國の艦隊は、暗夜の海上を霧地に進んでゐた。一點の光も見えない。舷窓の蓋はびつたりと緊められた。艙口は遮閉された。人の聲も聞えない。下甲板も眞暗だ。たゞ戦闘燈火だけが、ほの暗く點いてゐて、時折その下を水兵が用事て急ぎ足に過ぎて行くのが、かすかに見えるだけだつた。

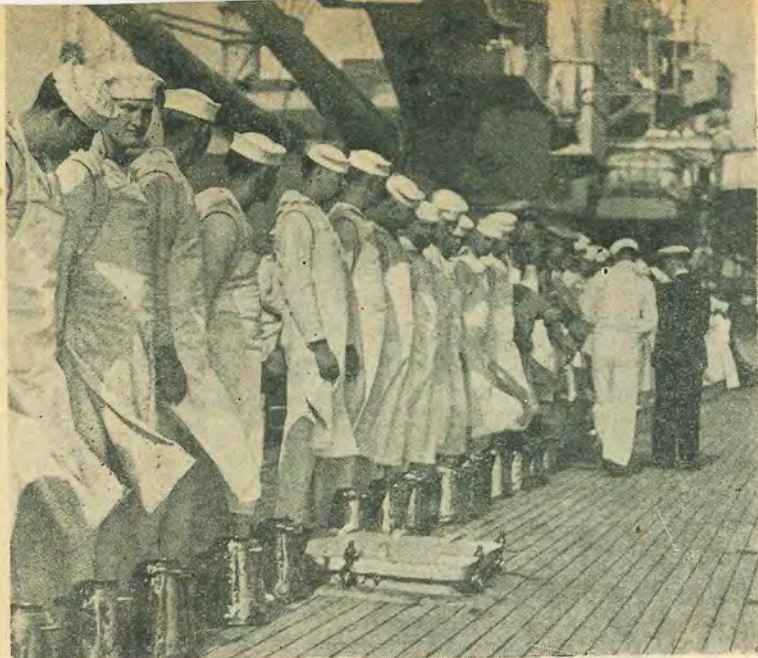
巨大な戦闘艦が、巨大な灰色の幽霊のやうに、黙々と波を切つて進んでゐた。眞暗な艦橋の上からだと、その下に千四百人の乗組員が靜かに彼等の戦闘部署に就き、砲塔や火薬庫に待機して、震動するエンジンの見張をしてゐるなど、いふことは感じられなかつた。

ときどき雲の間から月が現はれて、吾々の後續艦をかすかに照し出すのだつた。

## 驚くだらう ジョーン・ポール・ジョンは

もしもさうした夜、「米國海軍の父」が艦橋に立つたならば、非常になつかしさを感ずることだらう。百六十年前、ジョーン・ポール・ジョン（獨立戦争當時の米國の海軍司令官）の率ゐる快速船レンジャー號も、さうした暗い夜には、今日と同じやうに、船に見張を立て、砲手を部署に就かせて、暗い敵の領海を遊弋したことだらう。しかし、昔も今も變らないのはこの點までであつて、もしも「吾が海軍の父」が今日の吾が海軍を見たならば、きつとびつくりして、少からず衝動を感じるのだらう。

今日の海軍は地球彎曲面の遙か彼方を砲撃して、水平線下に隠れた標的を射ち、水兵には焼肉とアップル・パイを食べさせ、ソーダ水と映畫で艦上生活を楽しいものにさせるのである。近くはジョージ・デュリーのやうな海軍の英雄も、今日の海軍の



艦隊サンカー号の甲板に呼ばれて受ける兵計

## カロリーとビタミンは重要武器

今日の海軍においては、料理術が砲術と並んで重要視されてゐる。といふのは、よい食慾はよい水兵をつくるからである。私が或る戦艦で水兵と一緒に晝食をした時、吾々の御馳走は、鳥うどん、堅パン、鶏肉フライ、鶏もつ肉汁、漬物、マッシュ・ポテト、バター、ピナツ、高苺サラダ、櫻桃、パイ、バターパン、コーヒー等であつたが、これは別に日曜ではなかつた。

米國の水兵は一日に四千カロリーから五千カロリーを攝取するのである。今日でも水兵の目を覺まさせるためには、午前五時四十五分に起床喇叭が鳴り渡るのであるが、その喇叭は擴声器から聞えてくる。水兵は自給食堂で食事を攝り、シャワーを浴び、上陸した時は昔とちがつて、弓術や馬術や觀光をして暇をつぶすのである。そして毎晩甲板で無料の映畫を見、午後十時に毛布と枕のついた寢棚に入つて寝るのである。

しかし、水兵の生活はなか／＼生やさしいものではない。或る水兵志願者の一人が、新兵徵募士官に、我々は一日に何時間働くのですかと訊いたことがあつた。するとその士官の答へはかうであつた。「もし必要とあらば、二十四時間も働くのさ。」朝食前水兵が跣足になつて甲板を洗ふ時から、彼の一日は休む暇とてはない。

砲塔の裝填訓練においては、腰まで裸體になつて、彼は百ポンドの火薬囊を持ち上げねばならない。また機關室で見張をするのであるが、この機關室は熱帯地方では一六度以上に温度が昇り、ドアのハンドル

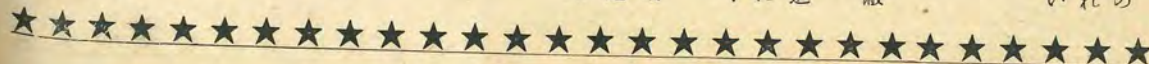
さへも熱くなつて、水兵達は平常の四倍も水を飲まないと體がしなびてしまふ程である。また、タイプライターの修繕とか、飛行機のエンジンを分解検査するとか、凡そ航海術とは關係のない仕事までもやる。

## 處罰エピソード

海軍の訓育は嚴格ではあるが、また公平でもある。微罪に對する處罰は、艦上の警察署である「キャプテン・マスト」に引渡される。

ライレーといふ下士官について、こんな話があつた。彼は艦上ではなか／＼勤勉で、有能な下士官であつたが、彼は時折上陸許可があつた時、いつも飲み過

故郷に便りを書く水兵





編輯後記

獨ソは遂に開戦した。傳へる所によれば、これまで事ある毎に、ドイツの進出をそれとなく阻害するやうな行動をつとけて来たといふソ聯が、意を決して起つたドイツの電撃的一打を弱腰に受けて、よろめき乍らも起ち上り、第二、第三の電撃を懸命に防戦してゐるのが開戦以來の状況である。

後、米國の動向を判断する上に不可缺と信じ、特輯を試みた。「米國の中南米工作」を述べられた窪田氏は同工作の最新の情勢を展示された。「我が中南米貿易」について執筆を得た南郷氏は、現在、日本中南米輸出入組合聯合會理事長を勤められ、中南米はもとより、我が貿易策全般の確立に指導的役割を果されてゐる人、また「中南米の現實」の植田氏も同會の主事を勤められ、南郷氏と共に數度にわたり中南米を視察されてゐる。氏が中南米と日本との文化交流に盡されてゐる努力には並々ならぬものがある。

氏の一文を併讀されたい。米國の太平洋攻勢を海軍作戰の點から述べたF、プラットの作戰論、及びコルトンの「米海軍生活記」は、それらの角度から米海軍の實體を掴む上の好記事たり得るものと信ずる。

この間にあつて、去る七月一日、獨伊を始めとする盟邦八箇國により、國民政府が正式に承認された。これによつて國民政府がその世界的性格に強度を加へ得たことは林氏の文に明かである。我々はこれを以て大なる喜びとすると共に、今後の責務一層重大なるを痛感する。我々は既に決定を見た帝國最高國策の具現化に向つて、團結挺身その實踐に當らなければならぬのである。

中南米における樞軸國側と、これに拮抗せんとする米國との間の航空爭潮は、歐洲大戰の進展と共に、ますます複雑な形勢を示してゐる。この錯綜せる航空事情については、大日本航空調査部の平山忠治氏から明快な解説を頂いた。

躍進ドイツの航空工業や自動車統制については、高度國防國家建設に全力を集中しつつある我國にとつても、大いに學ぶ所があると思ふ。この意味において親しくドイツに赴き、航空技術を研究されて最近歸朝された、航空本部の井戸田中佐から示唆に富んだ談話を頂いた。「自動車統制」の佐竹氏は、鐵道省技師、ドイツで運輸に關する技術的方面を觀察さ

西半球防衛を以て國土防衛の根幹たらしめんとする米國は、米洲圏を一環として、政治的、經濟的、軍事的に從來固執してきた汎米政策をいよ／＼強化する一

太平洋方面に包圍態勢を整備しつつある英米側には、日蘭會商の不成立と、さらに獨ソの開戦をめぐつて、一段の暗躍と策謀が豫想される。

何故に日蘭會商が成功を見なかつたのであらうか？ 最近まで蘭印に滞在しておられた東日記者牧野純夫氏に、現地を感じた會商の空氣を誌上に反映して頂い

ご近所の書店へ豫約申込み願ひます  
本誌は豫約者以外には頒布しません  
金八拾錢  
〒東京市小石川區久堅町一〇八  
現地組合ノ公定價格ヲ認ム

前金割引  
六ヶ月四圓七十錢（送料共）  
一ヶ年九圓二十錢（〃）  
廣告料金  
詳細御申越次第御回答申上げます。

御註文の文  
△代金拂込に振替御利用が最も安全便利であります。弊社の振替番號は「東京六五六七番」です。  
△郵券代用は必ず一割増。爲替は「神田錦町郵便局」と御指定のこと。

禁無斷轉載  
編輯者 鈴木 良  
發行者 小川 菊松  
印刷者 大橋 松雄  
發行所 株式會社誠堂新光社  
（會員番號 一一四五〇六）  
（電話神田 三二二二六）  
振替東京六五六七番  
東京市小石川區久堅町一〇八  
共同印刷株式會社印刷  
東京市神田區淡路町二丁目九番地